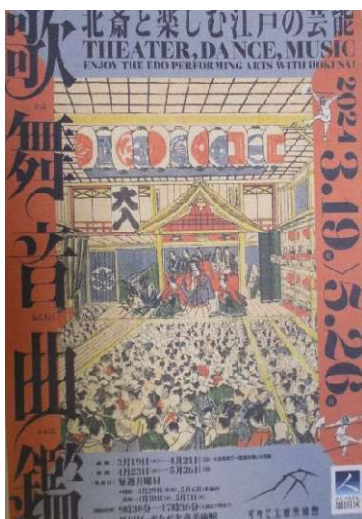


歌舞音曲艦（かぶおんぎょくかがみ） 北斎と楽しむ江戸の芸能

すみだ北斎美術館(墨田区) 前期 24. 03. 19~04. 21 後期 04. 23~05. 26



葛飾北斎 《浮世絵元祖東都歌舞伎大芝居之図》
『修柴田舎源氏』などのヒットがある江戸時代の戯作（げさく）者・「柳亭種彦」は、「浮世という言葉には、二つの意味がある」と記している。

<ひとつは憂き世の中(略)、一つの浮世は今様といふ> (『柳亭記』より)

「この世はままならぬもの」という「憂き世」と「今様」=「時代の最先端という意味の「浮世」。もちろん「浮世絵」の「浮世」は後者の方である。つまり、「浮世絵」は、世の中の最新風俗を紹介するメディアなのだ。

では「最新風俗」とはどんなものなのか。ファッション、流行スポット、相撲や見世物小屋などの興行・・・歌舞音曲、芝居興行などの芸能も、世間の皆様の関心が深いジャンルのひとつである。では、「葛飾北斎」は、どんな風に「浮世」の「歌舞音曲」を描いたのか。それを特集するのが本展覧会である。



葛飾北斎 《新板浮絵三芝居顔見世大入之図》 後期 左図

葛飾北斎 《東都勝景一覽》下 境町 通期 右図 同名作品に展示替え

画伯が「摺物」とともに多く手掛けていた江戸時代に大流行した大衆文芸「狂歌絵本」の一例で、本作は芝居小屋の様子を舞台上の役者側から描かれている。この狂歌は、現代で言えば「同人誌」みたいなものであろう。

本展は「北斎」が画業約70年に、リアルでユーモラスの歌舞音曲の幅広いジャンルの作品を残しているため、様々な角度から楽しめる催事である。